



100th
Anniversary
Yamakami

1915—2015年の

株式会社ヤマカミ あゆみ
Yamakami & co.,Ltd

おかげさまで
百周年

100th
Anniversary
Yamakami





社章

2004年の創業90周年時に制定。
中央のYは社名の頭文字、▼はVベルトで「勝利」を表現し、右上に伸びる3本のベクトルは「成長」を木材・建材・土木資材で表現している。
Yを囲む円はホースで「調和」を表現し、円の内側にある歯はタイミング伝動で「正確」と「協調」を表現している。
コーポレートカラーの濃い緑は「伝統」と「環境」を、円の中の白は「謙虚・潔白」をたとえた。

ごあいさつ

弊社100周年を迎えるにあたり、ごあいさつ申し上げます。

これまで永年にわたり皆様からご厚情を賜り、誠にありがたく心よりお礼申し上げます。

さて、顧みますと弊社は、まだ明治の気運明けない大正4年2月11日に、東京市本所区徳衛門町に産声をあげました。明治から大正初年に続くわが国の産業の近代化により機械を駆動する伝動ベルトの需要が高まる中、創業者・山上誠一郎が綿ベルトの製造販売を目的に家業を立ち上げたのが始まりです。

以来、関東大震災、昭和恐慌、太平洋戦争と時代の波に翻弄されながらも、つねにお取引先様との信頼関係を第一に代々の経営者、社員が事業に努めてまいりました。

お陰様で今日では、事業内容もベルト、ホース、工業用ゴム・プラスチック製品、住宅用木材・建材、土木・建設資材、電設資材、農業資材、各種製造・加工、国際人材交流、不動産賃貸管理と広がり、とくにベルト、ホース、工業用ゴム・プラスチック製品の

卸商社としては全国有数の商社としてご評価をいただけるまで発展することが出来ました。

これもひとえに、今日まで変わらぬご支援、ご愛顧を賜りましたお得意様、仕入先メーカーはじめ関係各位のご助力によるもので、その永年にわたるご厚情に対し、心から感謝申し上げます次第です。また、労を惜しまず社業に尽くしてくれた創業来の全社員の献身的努力に対しても深い敬意を表したいと思えます。

創業100周年を機に思いを新たに、次の新時代に向けてさらに皆様との信頼関係を強化し、社会やお取引先様のニーズにつねにお応えできる企業として、一層社業の発展に努めてまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年2月12日

株式会社ヤマカミ
代表取締役会長 山上 吉雄
代表取締役社長 山上 茂久

山上調帯製造所の開業

木綿ベルトの製造販売を行う山上調帯製造所が開業した場所は東京市本所区徳衛門町（現在の墨田区菊川に当たる）である。誠一郎は甥の長吉、徳次と共同で塩山ベルトも創業した。

ここで日本のベルト製造の歴史をひもとくと、木綿製ベルトの製造で最も古いのは木綿調帯合資会社（東京芝区、1887年創立）と言われている。革製ベルトは1888年（明治21）に新田組（現・ニッタ株式会社）が製造に成功したことに始まる。1890年代、明治中期以降から、とくに20世紀に入ると機械、動力を使う近代的紡績業が普及、ベルトの需要は急速に高まっていく。

1914年（大正3）に起きた第一次世界大戦を機に諸産業が急速に勃興し、伝導機も普及してベルトの需要はさらに増大していく。こうした時代背景から東京、神戸を中心にベルト製造業者が多数生まれた。

誠一郎はベルトを織る原料の糸は乾燥した日が続いたときに買い付けした。理由は当時の取引単位が貫目（尺貫法の重さの単位）であったため、糸が湿気で重くなると金額が高くなるからである。のち2代目となる善吉も父に言いつけられて、よく親戚の綿糸屋に仕入れに行かされた。

創業来、順風満帆と思えた事業だったが、1922年（大正11）には近火により工場が被災、本所区菊川3丁目1番に移転するが、これも翌年9月1日に東京・横浜を襲った関東大震災で灰燼に帰してしまう。これを機に木綿ベルトの製造を中止し、当社は商業者の道を進むことになる。

こうしたことも影響したのだろう、誠一郎は震災の翌年には善吉に山上調帯製造所の経営を任せている。



織り機の自動化にはベルトが重要な役割を果し発展した（大正時代）



綿ベルト



革ベルト

山上善吉——戦前戦後の苦難と発展



山上善吉
(明治36年—昭和45年)



田中一郎 (昭和23年当時)



革製弾入れ

山上善吉は1903年（明治36）9月16日、出生。早くから父の事業を手伝い、1924年（大正13）若干20歳で父から事業を継承すると、折からの不況下ではあったが堅実経営に徹していく。

1929-30年（昭和4-5）からは世界的な大不況期に入る。1931年（昭和6）には満州事変が勃発し、その不況に拍車がかかり、この状態は1937年（昭和12）の日華事変の直前までつづき、統制経済が導入され初めて息を吹きかえしたといわれている。

こうした中、善吉は1931年（昭和6）に皮革ベルト最大手の新田皮革製造所（現・ニッタ株式会社）との取引を開始する。

1932年（昭和7）には、社名を山上ベルト合名会社とし、組織も変更する。

こうしたことが功を奏したのだろう、昭和前期の日本の国運の拡張とともに当社は、販売エリアを北海道、樺太までも拡大していく。1937年（昭和12）4月28日には、父誠一郎が栃木県安蘇郡田沼町大字吉水833番地に転籍、隠居したため山上家の家督を相続、住居も本所区菊川3丁目1番に移す。

中国での戦火は終息せず、年末に太平洋戦争が始まる1941年（昭和16）にはさらにあらゆる物品の売買に政府の許可を必要とする統制経済時代に突入する。

そうした中、時代の趨勢に合わせて当社も1942年（昭和17）には社名の「ベルト」を、再び「調帯」と言い換えて山上調帯株式会社と変更し、株式化も果たす。さらに新事業として牛皮の半裁を利用して革パッキンの製造販売を目的とする山上製作所も設立した。

同社は、通産省の皮革関連団体の許可の下に支給される牛皮を原料に陸軍で使用する弾入れ、バンド、水筒の革紐などと革パッキンを製造する軍需工場であった。

代表には山上善吉、取締役には田中一郎が就任した。東京市小石川区江戸川橋大曲にあった工場は大きくテニスコートが2面、地下には防空壕もあった。自宅も工場に隣接して建てた。

1944年（昭和19）11月から東京は、頻繁に米軍による空襲に襲われるが、とくに東京の下町を灰燼に帰した3月10日の大空襲では当

社も菊川の本店、大曲の工場、自宅を焼失した。

敗戦からの復興

1945年（昭和20）8月15日、日本は敗戦を迎え、一時は経済活動も荒廃し混乱を極めるが、徐々に焼け野原の中から復興していく。

当社も敗戦直後、直ちに日本橋人形町3丁目で復興を果たす。山上製作所も社名を山和製作所と変え、事務所を日本橋人形町に、工場を日本橋芳町に置いて再建する。現在、社員の会は山和会というが、読みがいつ、「やまわ」から「さんわ」へと変わったのかは判然としない。

1947年（昭和22）1月1日には神田岩本町1丁目1番地に土地建物を購入し移転した。

翌年7月1日、社名を山上ベルト株式会社に変更する。この年には国策会社であった東北ゴム株式会社（1943年設立）と代理店契約を締結し、同社のゴムホース、平ベルトの販売が始まった。また当社の関係会社として株式会社旭商会を台東区二長町に設立、同社は1969年（昭和44）山和工商株式会社に改組し、さらに当社の茨城営業所、つくば支店へと変遷する。

この年の1月9日に善吉の母トヨは亡くなっていたが、年がおし詰まった12月31日、創業者山上誠一郎もトヨを追うように他界する。

1950年（昭和25）6月、朝鮮戦争が勃発する。これを機に日本経済は戦後の混乱期、闇市時代を抜け出し、その後の高度成長経済へと続いていくことになる。

同年には長く続いた統制経済が終わる。ゴム製品も自由に製造販売できるようになったが、資材不足からゴムベルトも容易には入手できず、わが社も戦前からのつてを頼るなどして品物集めに苦労した。



戦後の焼跡（日本橋浜町付近）



闇市の様子



東北ゴムのホース在庫



東北ゴム 代理店会

三ツ星調帯と代理店契約

こうした中、1951年（昭和26）に三ツ星調帯株式会社と代理店契約を締結し、1953年（昭和28）には東日本の代理店となって、需要が急増するVベルトの在庫販売を開始する。この頃から業界では「山上に行けば何でも揃う」という評価が高まっていった。

1955年（昭和30）、山上善吉は東部ゴムベルト商業会の理事長に就任、1957年（昭和32）まで務める。

ベルト業界の団体としては1930年（昭和5）に商工の会である「東京調帯会」が設立されており、商業者の集まりとしては戦前から「東部ゴムベルト商業協同組合」があった。これは1950年（昭和25）にゴム製品の統制が撤廃されると同時に解散、同年10月ゴムベルト商業者45人による「東部ゴムベルト商業会」が発足した。

一方、ゴムホース商業者間でも団体結成の動きが強まり、有志69人より1957年（昭和32）3月「東部ゴムホース商業会」が設立された。

両商業会は1965年（昭和40）11月に合併し、「東部工業用ゴム製品商業会」となり、1974年（昭和49）「東部ゴム商業会」に名称変更、1978年（昭和53）10月に法的団体である「東部工業用ゴム製品卸商業組合」に移行し、今日に至っている。なお、のち善吉の後を継いだ吉雄も東部ゴム商業会時代から永年にわたり理事、常任理事、ベルト部会長を務めることになる。現在は茂久が副理事長で事業委員長を務めている。

1956年（昭和31）には、プラス・テク株式会社と代理店契約を締結し、塩ビホースの在庫販売を開始する。戦後、ビニール製品が米軍によりもたらされ、生活用品、玩具などに需要が広がったが、産業用品としての需要もこの頃から広がってくる。

1951年（昭和26）山和野球倶楽部が創設された。監督に田中一郎が主将に山上吉雄がなり、若手社員を中心にチームが結成された。東部ゴム商業会主催の第1回野球大会では見事優勝をしている。

その後も、大会では商業会時代を含め、昨年まで通算8回の優勝をしている。現在江東区の1部リーグでも活躍して全国大会出場を目指している。



三ツ星調帯本社にて
（昭和30年代前半）



山上ベルト三ツ星会
（昭和30年代）



山上ベルト社員旅行 三ツ星調帯本社
前にて（昭和34年）



山上調帯野球部「山和倶楽部」
（昭和26年）



江東区秋季大会優勝記念写真（平成26年）



昭和35年に制定されたシンボルマーク

山上吉雄——高度成長と会社の近代化

1957年（昭和32）3月、大学を卒業し、三ツ星調帯に籍を置いていた山上吉雄が入社した。「昭和31年頃から会社でアルバイトはしていた。入社当時の社員は25人くらいだったと思う」と山上吉雄現会長は語る。

吉雄は1934年（昭和9）出生。学生時代は、貧血気味だった母君子の療養も兼ねて神奈川県葉山の家で過ごした。

このころから地元の親友で、大学や社会人になっても親しく付き合ったのが、のちに俳優として一世を風靡した石原裕次郎である。いつも太陽の下で遊んでいた裕次郎や吉雄たちの交友をモデルとして、兄の石原慎太郎が小説にしたのが「太陽の季節」である。「太陽の季節」は1955年（昭和30）下期の芥川賞を受賞、映画化もされ、太陽族という風俗を生み出す。その後ぞくぞくと登場する新しい若者文化のはしりであった。

1960年（昭和35）には鈴木家の四女重子と結婚。重子の実家は宇都宮で鈴木組として製材業を営んでいた。重子の兄豊の長男が現社長の茂久である。

吉雄が入社した翌年、1958年（昭和33）には、当社と三ツ星調帯、塩山ベルト、東京ベルト、田中ベルトの5社の共同出資で、浅草にコンベヤベルトのエンドレス加工を行う有限会社五星エンドレスを設立した。同社はその後、時代の変遷もあり持ち株関係を解消し、当社の完全子会社となる（現在は休眠会社）。

1959年（昭和34）、台東区二長町（現・台東区台東1丁目）に山上ビルが完成、本社を同所に移転する。

またこの年、三ツ星調帯40周年を記念して三ツ星調帯全国代理店会は、前年に完成したばかりのVベルト工場屋上に大ネオン塔を寄増した。4月10日に行われた点灯式では、全国の代理店主125人を代表して山上善吉が点灯のスイッチを入れた。ちなみに当日は皇太子、美知子妃（現・天皇陛下、皇后陛下）のご成婚の日でもあった。



山上吉雄三代目社長（現会長）



石原裕次郎氏（右）と並んで



入社間もない山上吉雄（右）
左は塩谷信次氏。中は藤田洋之助氏



1960年4月10日、三ツ星調帯で盛大に行われたネオン塔完成点灯式
（三ツ星ベルト70年史から）



二長町の山上ベルト本社ビル（昭和35年）



東神田の山上ベルト工業本社ビル
（昭和39年）



岩本町の山上ビル完成式
（昭和40年）

山上善吉



神田須田町の山上ビル（昭和42年）

1962年（昭和37）に千代田区東神田に山上ビルが完成、本社を二長町から移転した。時はあたかも東京オリンピックを迎えようとしていた。日本経済は高度成長を重ね、ひとつのエポックを迎えつつあった。当社も、この頃になると取扱製品が多様化してベルト以外の工業用品の取扱いが増えてくる。

オリンピックが東京で開催された1964年（昭和39）の3月には山上ベルト株式会社の組織を改編、社名も工業用品の「工業」を入れて山上ベルト工業株式会社（資本金800万円）と変更する。代表取締役社長には山上吉雄が就任、山上善吉は代表取締役会長となった。新社長吉雄は29歳の若さであった。「当時は社員が32-33人、年商5億円程度だったと思う」と吉雄は回想する。

1965年（昭和40）には千代田区岩本町1丁目1番地に山上ビルが完成、本社を同所に移す。同ビルは貸しビルとして現在も稼働している。

翌年には山上善吉会長が全国新田会の会長に就任する。1971年（昭和46）に取扱量も多く、業界でも優秀な代理店からの責任ある声を経営に反映させる組織「星和会」の当初からの主要メンバーであったとニッタの100年史にも記述されている。なお吉雄もその後、三ツ星ベルト、ニッタ、東北ゴム、クラレプラスチック等の代理店会長を歴任することになる。

神田須田町に本社ビル竣工

1967年（昭和42）10月1日には事業拡大から岩本町の本社ビルが手狭になり、千代田区神田須田町2丁目25番地に山上ビルを建て本社を移転した。須田町ビルはエアーシューターシステムを導入し、伝票移動の高速化と省力化を図った。資本金も960万円に増資した。

当社は戦後、日本橋人形町で復興して以降、1947年（昭和22）神田岩本町、1960年（昭和35）二長町、1962年（昭和37）日本橋東神田、1965年（昭和40）神田岩本町と移転を重ねてきたが、この須田町の本社で2002年（平成14）に現在の山上センタービルに移るまでの34年間を過ごした。

1970年（昭和45）には新入社員の面接試験中に山上善吉会長が脳出血で倒れ、3日後の10月1日に急逝、67年の生涯をとじる。父誠一郎から1924年（大正13）に事業を引き継いでから亡くなるまで46年間、会社に身をささげた善吉らしい最期であった。

1968年（昭和43）ニッタ・ムアーカンパニーと取引を開始し、翌年

には全国に先駆けてシンフレックスチューブ、ホース、継手の在庫販売を強化して商品の多角化と新分野への進出を図った。

また、1970年（昭和45）英国製ホースクリップ「Jubilee」の東日本総発売元として在庫販売を開始した。



1960年代後半から当社は積極的に投資をして販売を拡大していく。

- ・1968年 エンドレス加工のコンベヤーセンター開設
- ・1969年 高圧ホースの加締の中央アッセンブリーセンター開設
- ・同 年 山和工商(株)を農業資材販売を目的に設立
- ・1971年 山上ベルト工業(株)大宮を大宮市に設立
- ・1972年 三ツ星ベルトと合併で甲信三ツ星(株)を松本市に設立
- ・1974年 同じく東部三ツ星工販(株)を板橋区に設立
- ・1975年 千葉支店を千葉市に開設
- ・同 年 北関東支店を小山市に開設
- ・同 年 八王子支店を開設

という具合である。

資本金も1967年960万円、1968年1,440万円、1969年1,881万円、1971年2,257万円、1973年2,927万円、1976年5,592万円、1977年6,038万円と増資を重ねる。

事務の合理化、コンピューター化

これと同時に山上吉雄社長は事務の合理化も進める。今日では当たり前となったコンピューター化のはしりである。前任の善吉社長時代、昭和30年代からレミントンのタイプライターで打った請求書を発行し、お客から「山上の請求は調べないで払ってもいい」と言われるほどだったが、1970年頃吉雄は電算機能を持つレミントンタイプライターと東芝のトスバックを連動させ当社に導入する。商品名、数量、単価を入れると合計金額ができるという今では当り前のものだが、導入すると、これをお客が見に来るほどの評判になった。1980年頃にはNTTのDRESSを導入、次いで富士通のコンピューター導入へと進んでいく。

1979年（昭和54）に設立された長野工業用品販売は、1982年（昭和57）に上田営業所を開設、1988年（昭和63）に中野営業所を開設、1993年（平成5）に中信営業所を開設するなど順調に事業を拡大し



山上善吉（右）と山上吉雄（左）
（昭和35年）



山上ベルト工業社員旅行 三ツ星ベルト名古屋工場にて（昭和40年）



第2回山上ベルト工業懇親会
左から山上吉雄、亀田正孝（蒲田ゴム）、山田秀和（三ツ星ベルト）、清水忠義（清水産業）、塩谷兼博（東京シオノヤ）（昭和47年）



昭和43年当時のコンベヤーセンター（左）と昭和50年当時の千葉支店（右上）、北関東支店（右中）、八王子支店（右下）



当時のコンピューター室



カナダ製材工場での検品の様子(昭和63年)



第1回ヤマカミ共進会(平成8年7月11日＝第一ホテルで)



第1回共進会コミュニケーションのタペで当時の役員(平成8年)



共進会オーナー会(平成16年)。石原裕次郎記念館にて。中央に石原まき子さんを囲んで

てきた。1997年(平成9)には長野工販株式会社と社名変更、2015年(平成27)2月1日には当社の長野支社として新たにスタートした。

新規事業の立ち上げ

1982年(昭和57)には現社長の茂久が大学卒業後、三ツ星ベルトに入社し、社会人修業を積んだのち、当社に入社する。その後叔父、叔母である吉雄、重子の養子となり、茂久の家族は山上姓となる。また、茂久の長男翔も大学卒業後、三ツ星ベルト、クラレプラスチックスで社会人を経験したのち、当社に入社し現在取締役役に就任している。

茂久はベルトやホースの営業として活躍するかたわら、入社4年後の1986年(昭和61)、2×4(ツーバイフォー)構造用木材(ランバー)を輸入販売するラスティ事業部を立ち上げる。ランバー材は含水率などを厳しく制限した規格木材で2×4建築の構造材として使用される。強度・安定性、均一性に富むのが特徴である。

工業用ゴム・樹脂製品商社の当社が建築構造材を取り扱うきっかけとなったのが当時の円高不況である。

日本でデimensionランバーの輸入窓口をしていたのは大手商社がほとんどであった時代に茂久は直接北米に買付けに出かけた。2週間ほど、買付けができる製材所を開拓すべく回った。

こうした努力の結果、輸入を開始することとなった。おりしも2×4建築の普及とともに爆発的に売れた。

今日、ラスティ事業部は当社の中核事業のひとつとなっている。ちなみにラスティ(LUSTY)

とはLumber Sales & Trading by YAMAKAMIの頭文字からとったもので、「元気のいい」という意味もある。



1986年制定したラスティのロゴ

ヤマカミ共進会が発足

1995年(平成7)には社名を株式会社ヤマカミに変更する。広がる事業内容と社名がそぐわなくなったからである。翌年の1996年(平成8)6月にはヤマカミ共進会を発足させる。1960年代後半か

らあった山上三ツ星会を発展的に改組して発足したものである。

ヤマカミ共進会は、商社のS会員48社とメーカーのM会員11社と当社をメンバーとしてスタート。同年7月11日に第1回ヤマカミ共進会懇親会を開催、以降、毎年オーナー会と実務者会を開催している。実務者会はメーカーの製品展示会と講演会、懇親会の「コミュニケーションの夕べ」で構成されている。

平成に入ってから支店・営業所、流通センターなどの拡充は続く。

- ・1999年 湘南営業所開設
- ・2000年 新潟支店開設
- ・2001年 茨城営業所開設
- ・2003年 北関東支店を宇都宮市に移転し、宇都宮支店と改称
- ・2005年 湘南営業所を伊勢原市に移転し、さがみ支店と改称

ラスティ事業部関係では、1999年（平成11）川崎流通センターを開設、構造用木材の在庫販売を開始した。2003年（平成15）にはつくば工場を開設、ディメンションランバーのプレカットに加え、2×4パネルの製造を開始した。

ラスティ事業部の拡大はその後も継続し、2010年（平成22）につくば工場を移設拡張、2013年（平成25）にはさらに土地を拡張し増設を行ない現在に至っている。

2001年（平成13）には江東区富岡1丁目に現在の本社であるヤマカミセンタービルが完成、翌年の1月1日、永年親しんだ神田の地から移転した。（ただし登記上の本店所在地は、現在も東京都千代田区神田須田町2丁目25番地となっている。）



ヤマカミ共進会発足を報じるゴム報知新聞（平成8年7月15日号）



流通センター新設を報じる日刊木材新聞（平成11年3月5日号）



2×4つくば工場新設を報じる日刊木材新聞（平成15年8月23日号）



山上茂久四代目社長



日本社須田町ビル（平成10年）



日本社事務所（平成10年）



ヤマカミセンタービル竣工披露パーティー（平成14年）



創業90周年記念パーティーで当時の役員（平成16年）



北京雅瑪華美貿易有限公司設立記念写真
(平成16年)



山上茂久社長 (左) 山上吉雄会長 (中央)
山上翔取締役 (右)



現役員・幹部

山上茂久—100周年に向けて

そして2006年（平成18）には90周年記念行事を横浜ロイヤルパークホテルで開催、100周年へ向けて秒読み段階に入る。

また同年6月には代表取締役社長に4代目の山上茂久が就任、山上吉雄は代表取締役会長に就任する。

2010年（平成22）3月にラスティ事業部つくば工場の隣接地につくば流通センターを開業し、大口径ホースの在庫販売を開始する。また同じ敷地内に茨城営業所を移転、つくば支店と名称変更した。

2008年頃に入ると、当社の事業はますます拡大していく。2009年（平成21）仙台支店を開設し、2012年（平成24）札幌支店を開設した。これにより販売拠点は北海道から長野県、静岡県まで、ほぼ東日本全域を網羅した。海外では中国・北京に工業用ゴム・樹脂製品販売の北京雅馬華美工貿有限公司を2004年（平成16）に設置している。

また子会社であったコーシン株式会社、東部工販株式会社、長野工販株式会社を順次吸収し、2012年（平成24）には従業員持ち株会も発足させた。

当社は2015年（平成27）2月11日、創業100周年を迎えたが、お取引先様や当社に関わるすべての方々との信頼を大事にして共に進んでいくことをここに銘記する。



2014年2月 100周年を記念してのハワイ旅行

ヤマカミネットワーク



本社



札幌支店



仙台支店



東北営業所



新潟支店



宇都宮支店



つくば支店・工場



さいたま支店



関東営業所



千葉支店



八王子支店



さがみ支店



甲信支店



長野支店



上田営業所



中信営業所



東部工販支社



長野工場



テクニカルセンター



北京雅瑪華美貿易有限公司



本社での幹部会議



本社事務所

株 式 会 社 ヲ

1915年(大正4)～1967年(昭和42)

西暦	年	内 容	関連会社及び業界関連	備考
1915	大正4年	2.11 山上誠一郎が『山上調帯製造所』を綿織りベルトの製造販売を目的に、東京市本所区本所徳右衛門町で創業	8.10 山上民造 死去	
1922	大正11年	近火により被災したため、本所菊川3丁目1番に移転		
1924	大正13年	山上善吉が『山上調帯製造所』を継承し、販売エリアを北海道や樺太まで拡大		
1930	昭和5年			『東京調帯会』結成
1931	昭和6年	合資会社新田帯革製造所と取引開始		
1932	昭和7年	『山上ベルト合名会社』に社名および組織を変更		
1938	昭和13年			『東部ゴムベルト商業協同組合』発足
1942	昭和17年	『山上調帯株式会社』に社名および組織を変更		『山上製作所』を革バックの製造販売を目的に、江戸川橋大曲に設立 代表に山上善吉、役員に田中一郎が就任
1945	昭和20年	3.10 戦災で本所菊川の本店を焼失したため、日本橋人形町3丁目6番7号に移転、復興		『山上製作所』も戦災ですべてを焼失したため、『山和製作所』として日本橋人形町で復興、工場は日本橋芳町で再出発
1947	昭和22年	1.1 本店を神田岩本町1丁目1番地に移転		
1948	昭和23年	7.1 『山上ベルト株式会社』に社名変更		12.1 山上誠一郎 死去 73才
1950	昭和25年	東北ゴム株式会社と代理店契約締結		10.1 『東部ゴムベルト商業会』発足
1951	昭和26年	三ツ星調帯株式会社と代理店契約締結		『山和野球倶楽部』を創部
1953	昭和28年	三ツ星調帯株式会社の東日本総代理店としてVベルトの在庫販売開始		
1955	昭和30年	6月 山上善吉が東部ベルト商業会理事長に就任(～1957.5)		
1956	昭和31年	プラス・テク(株)と代理店契約締結		
1957	昭和32年	山上吉雄が入社		3月 「東部ゴムホース商業会」発足
1958	昭和33年			浅草に『有限会社五星エンドレス』をコンベヤベルトのエンドレス加工を目的として、三ツ星調帯、塩山ベルト、東京ベルト、田中ベルトと共同出資で設立
1960	昭和35年	山上ビル(二長町)が完成し、本店を台東区二長町に移転		
1962	昭和37年	山上ビル(東神田)が完成し、本店を中央区日本橋東神田に移転		
1964	昭和39年	3.18 『山上ベルト株式会社』の組織を改編し、『山上ベルト工業株式会社』を設立。代表取締役社長に山上吉雄、代表取締役会長に山上善吉が就任		資本金8,000千円
1965	昭和40年	山上ビル(岩本町)が完成し、本店を千代田区神田岩本町1丁目1番地に移転		11.30 『東部工業用ゴム製品商業会』発足
1967	昭和42年	10.1 山上ビル(須田町)が完成し、本店を千代田区神田須田町2丁目25番地に移転。資本金9,600千円に増資		

マカミ年表

1968年(昭和43)～1988年(昭和63)

西暦	年	内 容	関連会社及び業界関連	備考
1968	昭和43年	2.1 資本金14,400千円に増資 3.1 『コンベヤーセンター』をコンベヤーベルトの在庫とエンドレス加工を目的として、江東区富岡1丁目14番21号に開設 有限会社ニッタムアーカンパニーと取引開始		
1969	昭和44年	3.1 シンフレックスの在庫販売を本格的に開始すると同時に高圧ホースの加締め加工を目的として『中央アッセンブリーセンター』を江東区富岡1丁目14番に開設	2.1 資本金18,812千円に増資	12.1 『山和工商株式会社』を農業用資材の販売を目的として、松戸市東平賀城町に設立 代表取締役社長に中島淳、取締役役に山上吉雄が就任
1970	昭和45年		10.1 山上善吉 死去 67歳	
1971	昭和46年	ユニッタ株式会社と取引開始	2.1 資本金22,571千円に増資	『山上ベルト工業株式会社・大宮』を埼玉県大宮市本郷町307番地に設立し、代表取締役社長に神戸正二（山上ベルト工業常務）、取締役役に山上吉雄が就任
1972	昭和47年	3.1 資本金25,951千円に増資	8.1 三ツ星ベルト株式会社と合併で『甲信三ツ星株式会社』を長野県松本市村井町南2-9-5に設立し、代表取締役社長に山上吉雄が就任	
1973	昭和48年		2.1 資本金29,257千円に増資	
1974	昭和49年		9.1 三ツ星ベルト株式会社と合併で『東部三ツ星工販株式会社』を板橋区赤塚新町2-11-6に設立し、代表取締役社長に田中一郎、取締役役に山上吉雄が就任	
1975	昭和50年	5.20 『千葉支店』を千葉県千葉市末広4-24-5に開設 8.1 『北関東支店』栃木県小山市粟野の宮1865-1に開設 10.28 『八王子支店』東京都八王子市市安町3-6-7に開設		
1976	昭和51年	3.1 資本金55,926千円に増資		
1977	昭和52年	3.1 資本金60,381千円に増資		
1978	昭和53年		12.1 『東部工業用ゴム製品卸商業組合』設立	
1979	昭和54年		2.19 『長野工業用品販売株式会社』設立 『山和工商株式会社』が龍ヶ崎市若柴町に移転	
1981	昭和56年	売上高が30億円突破 (3,037百万円/1981年1月期)		
1982	昭和57年	山上茂久が入社		『長野工業用品販売株式会社・上田営業所』開設
1983	昭和58年	2.1 山上ベルト工業(株)大宮を吸収合併し、『大宮支店』開設		
1984	昭和59年	2.11 70周年記念行事を東京会館(霞が関)で開催 従業員数が100人を超える(1984年1月期末)		
1986	昭和61年	『ラスティ事業部』を開設し、住宅用木材の輸入販売を開始		
1988	昭和63年		5.1 『長野工業用品販売・中野営業所』開設	

株 式 会 社 ヤ

1993年(平成4)～2006年(平成18)

西暦	年	内 容	関連会社及び業界関連 備考
1993	平成5年		7.1 『長野工業用品販売株式会社・中信営業所』開設
1994	平成6年	12.1 『千葉支店』新社屋が完成し、千葉市中央区末広4-13-6に移転	
1995	平成7年	10.1 『株式会社ヤマカミ』に社名変更	
1996	平成8年	売上高が50億円突破 (5,264百万円/1996年1月期)	6月 『ヤマカミ共進会』発足
1997	平成9年	6.1 『大宮支店』新社屋ビル完成	2.1 『長野工業用品販売株式会社』が『長野工販株式会社』に社名変更
1998	平成10年	11.1 『八王子支店』が八王子市平岡町34-5に移転	
1999	平成11年	1.1 『ラスティ事業部・川崎流通センター』を川崎市川崎区東扇島29-1に開設し、構造用木材の在庫販売を開始 決算期を1月末から3月末に変更 4.1 『湘南営業所』神奈川県平塚市東八幡4-16-7に開設	
2000	平成12年	10.1 『新潟支店』を新潟市卸新町3-16-30に開設	不動産賃貸管理業を目的に『株式会社山上ビル』設立 代表取締役社長に山上重子、取締役役に山上吉雄、山上茂久が就任
2001	平成13年	7.1 『茨城営業所』を茨城県龍ヶ崎市川崎町83に開設	
2002	平成14年	1.1 『山上センタービル』が江東区富岡1丁目14番21号に完成し、本社機能を移転。登記上本店は千代田区神田須田町2丁目25番地	『東部三ツ星株式会社』が『東部工販株式会社』に社名変更
2003	平成15年	5.1 北関東支店を小山市から栃木県宇都宮市元今泉4-15-12に移転し、『宇都宮支店』に名称変更 8.21 『ラスティ事業部・つくば工場』を茨城県つくば市島名3002-1に開設し、プレカットに加え、2×4パネルの製造を開始	6.1 『甲信三ツ星株式会社』が『コーシン株式会社』に社名変更
2004	平成16年	5.1 90周年記念行事を横浜ロイヤルパークホテルで開催	6.1 『大連山上国際工貿』を木材の貿易と人材派遣を目的として、中国遼寧省大連市西岗区中山路143-2に大連合和工貿有限公司と合作で設立。中国での国際貿易権を取得 10.1 『北京雅瑪華美工貿有限公司』を工業用ゴム・プラスチック製品の販売を目的として、中国北京市朝陽区建国路88号SOHO現代城A座906に独資で設立。法定代表人董事長に山上茂久が就任
2005	平成17年	6.27 『湘南営業所』を神奈川県伊勢原市白根389-4に移転し、『さがみ支店』に名称変更 従業員数が120人を超える	
2006	平成18年	4.1 代表取締役社長に山上茂久、代表取締役会長に山上吉雄が就任 4.24 『八王子支店』を東京都日野市多摩平3-31-12に移転 11.1 『新潟支店』を新潟県新潟市東区卸新町1-842-11に移転	

マカミ年表

2007年(平成19)～2015年(平成27)3月

西暦	年	内 容	関連会社及び業界関連 備考
2007	平成19年	売上高が60億円を突破 (6,030百万円/2007年3月期)	3.1 国際人材交流を目的として、『ジントック協同組合』を設立
2009	平成21年	3.6 『仙台支店』を宮城県仙台市若林区卸町東1-6-15に開設 5月 IS014001を取得 7月 ヤマカミ野球部を再結成	『東部工販株式会社』代表取締役社長に森靖高、代表取締役会長に田中一郎、取締役役に山上吉雄、山上茂久が就任
2010	平成22年	3.1 『ラスティ事業部・つくば工場』を茨城県つくば市島名3067(E9街区5画地1F)に拡張し移設 3.1 『つくば流通センター』を茨城県つくば市島名3067(E9街区5画地2F)に開業し、大口径ホースの在庫販売を開始 3.1 『茨城営業所』を茨城県つくば市島名3067(E9街区5画地2F)に移転し、『つくば支店』に名称変更	
2011	平成23年	1.1 コーシン株式会社を吸収合併し、『甲信支店』開設 10.1 大宮支店を埼玉県桶川市北1-25-26に移転し、『さいたま支店』に名称変更 さいたま支店内に『農業資材営業所』を開設	2.1 『長野工販株式会社』の全株式を取得し、完全子会社化 代表取締役社長に加生昭、取締役会長に橋井利男、取締役に山上茂久が就任
2012	平成24年	3.1 『従業員持ち株会』(配当優先株)を設立 7.1 『札幌支店』を北海道札幌市東区東苗穂1条2-4-40に開設	7.1 『長野工販株式会社・東北営業所』を宮城県仙台市若林区卸町東1-6-15の(株)ヤマカミ仙台支店内に開設 12月 『東部工販株式会社』を江東区白河3丁目6-1に移転
2013	平成25年	連結売上高が100億円を突破 (10,540百万円/2013年3月期) 12.20 『ラスティ事業部・つくば工場』と『つくば流通センター』の土地拡張と増設が完了	
2014	平成26年	4.1 東部工販株式会社を吸収合併し、『東部工販支社』開設 6.1 『テクニカルセンター』を埼玉県さいたま市北区本郷町307に開設	1.1 『長野工販株式会社・東京事務所』を土木・電設資材の販売を目的として、東京都江東区富岡1-14-21の(株)ヤマカミ本社内に開設 2.1 『長野工販株式会社』代表取締役社長に山上茂久、取締役会長に橋井利男、取締役に山上翔が就任 6.1 『長野工販株式会社・関東営業所』を埼玉県さいたま市北区本郷町307の(株)ヤマカミテクニカルセンター内に開設
2015	平成27年	2.1 『長野工販株式会社』を吸収合併し、『長野支社』開設 2.11 創業100周年を迎える。2月12日、帝国ホテルで100周年記念式典を開催 3.31 売上高123億円(2015年3月期予想) 資本金1億円に増資(予定)	



Yamakami